だってちゃんは、伊達市が千葉県白井市と友好交流協定を締結した際に贈られた、伊達市ゆかりのキャラクターです。

伊達市市民活動支援センター NEWS 2025-3

2026（令和8）年　3月 発行 vol.65

企画・編集
伊達市市民活動支援センター
〒960-0756
福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
TEL: 024-563-6970 FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsupport.jp
HP: http://www.date-civilsupport.jp/

Check! 市民活動イベント

2025年12月

あつまれ「だてな活動」開催しました！

＜もっと知りたい＞
伊達市市民活動支援センターHP
2025.12 あつまれ「だてな活動」



動画『あつまれ「だてな活動」①②』（伊達市ケーブルテレビ制作、番組「こんにちはだて」内で放送）をYouTubeチャンネルでご覧いただけます。



☆あつまれ「だてな活動」①☆
伊達市立伊達東小学校、子ども食堂おいでよ！（りょうぜんマルシェ実行委員会）、伊達市生活環境課、伊達市市民活動支援センターなど
https://www.youtube.com/watch?v=j87mtUFZgDE

★あつまれ「だてな活動」②★
特定非営利活動法人すまいる（たけの子の家 つくし）、すずらん工房、ワークスペースとみの、ほどはら授産所、サポートrita、伊達市社会福祉課、伊達市市民活動支援センターなど
https://www.youtube.com/watch?v=Z8fktcNa1Ow

市民活動 いろは 教えて！だってちゃん

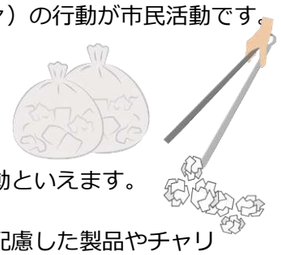
Q. 市民活動は１人でもできるの？

“群れる”のが苦手です…

A. もちろんです！

☆ 自分のためだけでなく、周りの人や地域のために、自ら進んで行うプラスα（アルファ）の行動が市民活動です。

① 自分の意思で（主体性）
② 営利を目的とせず（非営利性）
③ 社会が抱える課題や問題に取り組む（公益性）活動を
④ 継続して行っている（継続性）　のであれば、個人・団体にかかわらず市民活動といえます。



☆ 道路や公園のゴミ拾い。寄付や募金。献血。マイボトル・マイバッグの持参。環境に配慮した製品やチャリティーグッズ、授産製品の購入。地産地消の心がけ。節電。日常の“ついで”に1人でもできることが、どこかで誰かの笑顔へとつながっていきます。一人ずつ、みんなが手を差し伸べれば、大きな笑顔の輪になります。

だてな活動



キープ　フィールズ
KEEP FIELDS
伊達市保原町6丁目11

最新の店舗情報はこちらから

Sora（ソラ） チャリティーライブ

Sora チャリティーライブは、私の店で児童養護施設* 出身の方が働いていたことに始まります。施設の現状を知り、ちょうどそのころ音楽好きが集まるイベントを企画していたので、どうせやるならと、施設の子どもたちのために寄付を募るチャリティーライブとして開催しました。集まったお金は福島市内の施設3カ所に寄付します。寄付くださった方には、子どもたちと店がコラボで作る王冠（瓶のふた）バッチを御礼で差し上げています。2010年からおよそ年1回のペースで開催し、昨年12月に第10回を開催しました。



東日本大震災や能登半島沖地震など、被災地支援のチャリティーライブも行っています。発災後、被災地に支援が届くまでどうしても時間がかかってしまうので、即時に対応できるよう、災害支援専用の基金を作ることで有事に備えています。

出演者もお客さんも音楽を楽しみ、応援してくれています。これからもチャリティーライブを続けていきたいです。

DATE（だて） マランドロン

伊達市を盛り上げたいという有志が集まり、桜の時季や神社の夏祭り、冬のイルミネーションに合わせて屋台村やライブを開催する活動もしています。街に活気がないことには何事も始まらない。自分が住んでいる地域には、楽しく、魅力的であって欲しい。これまで様々な人のお世話になり、培われてきた人脈やノウハウを活かし、街を盛り上げることができるのであれば何よりもうれしく思います。

（024-572-3188 中島）



*保護者のない児童や保護者に監護させることが適当でない児童に対し、安定した生活環境を整えるとともに、生活指導、学習指導、家庭環境の調整等を行いつつ養育を行い、児童の心身の健やかな成長とその自立を支援する（こども家庭庁HP）

伊達市市民活動支援センター
〒960-0756　福島県伊達市梁川町青葉町1番地
伊達市役所梁川総合支所庁舎3階
月～金曜日(年末年始除く)　午前8時30分～午後5時15分
TEL: 024-563-6970　FAX: 024-563-6971
E-mail: bz004492@date-civilsupport.jp
HP: http://www.date-civilsupport.jp/

「伊達市市民活動支援センターNEWS」バックナンバーをご覧いただけます ↑↑↑



だてな活動

手話サークル さくら

伊達市北後22-1
伊達中央交流館

手話マーク
一社）全日本ろうあ連盟

伊達市HP
手話動画「手話で
コミュニケーション」

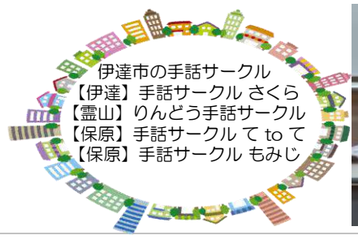
伊達市手話動画

和気あいあい

私たちの会はメンバー10名です。テレビドラマの影響を受けて。子どもに誘われたから。仕事で必要になるかも知れないと思って。手話に関わるようになったきっかけはそれぞれですが、互いの学びに対するスタンスが近く、和気あいあいと活動しています。資格取得など、具体的な目標を掲げているわけではないので、上達は遅いかも知れません（笑）。ちょっとした手話を学ぶことで、いつか、何かの役に立てればよいな…。そんな気持ちで毎月2回（第1・3金曜日）の活動を続け、気付けば2010（平成22）年の発足から15年が経ちました。

それぞれの“当たり前”

聴覚障がいのある方と手話を通してつながると、とても嬉しいし、相手にも喜んでもらえます。簡単なあいさつができるだけで、気持ちを分かち合うコミュニケーションがとれるのです。他方、普段から「聞こえる世界」に生きている私たちには、そのことを無意識に“当たり前”だと思っているところがあります。同じ日本で暮らしていても、聴覚ではなく、視覚や触覚に重きを置く方たちには、私たちとは異なる“当たり前”がある。文化の違いといえるかもしれません。聞こえる人も、聞こえない人も、それぞれがそれぞれの“当たり前”を尊重し、わかり合える社会であってほしい。手話を学ぶことで、「聞こえない世界」に思いを巡らせる機会に恵まれました。（080-6041-6944 大友）





だてな活動

みよた桃サロン＆ももカフェ

伊達市伊達市月舘町御代田字古跡54
御代田地区交流館

＊ 認知症の人やその家族、認知症に関心のある人、地域住民や介護や医療の専門職など、誰でも気軽に集い、交流や情報交換をする場のこと。認知症カフェに同じ。

元気づくり会→サロン→オレンジカフェ

そもそもの始まりは、御代田3番組の元気づくり会でした。週2回の運動を続けていくうちに、仲間同士で交流を深める場を持ちたいと考え、2021（令和3）年に「みよた桃サロン」が立ち上げられました。

サロンのメンバーは、ほぼ元気づくり会のメンバーに等しく、現在13名。自分たちの“お楽しみ会”を毎月企画し、つながりを深めてきましたが、そのうちに、このような身近な交流の機会は、地域に住まう高齢の皆さんにとっても必要、かつ喜ばれるのではないかと考えるようになりました。そうして始まったのが「ももカフェ」です。御代田地区にお住まいの高齢者が集う場を定期的に設けて、オレンジカフェ*として運営しています。



黙っていても、場が動く

カフェは月に一度、第3水曜日の10時から開きます。“地域のお茶飲み”だけでも良いのですが、様々なレクリエーションや季節の行事を取り込み、3か月に1回はイベント性のある企画を心掛けています。利用する皆さんは、毎月心待ちにしてくださっているようです。皆さんから米や野菜の提供を受け、カフェで軽食を用意することもあります。お花も持寄りくださいます。

黙っていても場が動く。カフェを運営するサロンのメンバーは息の合う仲間たちです。それぞれの得意分野をいかし、楽しく運営にあたっています。カフェは集いの場として誰でも参加できます。地域外の方も大歓迎しますので、ぜひ御代田地区交流館へおいで下さい。

（024-573-3518 寺島）



だてな活動

霊山町郷土史研究会

伊達市霊山町掛田字西裏17
霊山中央交流館



QRコードから支援センターHP内の紹介ページにアクセスできます。

霊山町郷土史

歴史に学び、継承する

当会の発足は1981（昭和56）年。旧霊山町の時代です。目的は、郷土に関する調査研究を通して、町の文化の向上に寄与すること。当時は会員300名を抱える大所帯だったそうです。現在の会員は40名ほどで、霊山町内各地域（掛田/大石/石田/小国）を深掘りする歴史探訪や、近隣市町村の史跡等を辿る研修旅行、講演会の開催などしています。

史料編纂と出版も大切な活動の一つです。1982(昭和57)年創刊の『霊山史談』は、これまでに第12巻を数えます。また、2002（平成14）年発行の『史跡名勝 霊山』は、この3月に改めて増補改訂版を世に出す運びとなりました。



郷土の歴史の歩みに学び、次の世代へと継承することは、未来の社会を豊かにすることにつながります。霊山町の子どもたちはもちろん、多くの市民の皆さんにも手に取っていただきたいです。

名峰 霊山のソフトパワー

人口は減っても、霊山が自然に恵まれた美しい町であることに変わりはありません。春の新緑。秋の紅葉。名峰 霊山の四季折々のすばらしさは息をのむばかりです。その自然の素晴らしさに、歴史の奥深さが加われば、訪れる人にとって、霊山の魅力もより一層増すのではないでしょうか。観光では、買い物（モノ）よりも体験（コト）が重視される傾向にあるといわれます。地元の“歴史好き”による調査研究活動が、霊山のソフトパワーの一翼を担うことになれば嬉しいかぎりです。

（024-586-1314 事務局）



だてな活動

農事組合法人 大関水稲作組合

伊達市梁川町大関字石丸8

自慢の米を知ってもらう

私たちの法人は、会長以下役員12名、組合員350名からなっています。設立は1971（昭和46）年。農業基盤整備事業にかかる地権者の皆さんに、農業用機械の利用と農作業の受託サービスを提供しています。

担い手不足や高齢化、耕作放棄地の増大など、米作りをめぐる状況は大変厳しく、私たちの対象農地150町歩（≒ ha）においても6割しか耕作されない現実があります。他方、米作りに適した風土のもと、大関で生産された米は抜群においしい！私たちの誇る自慢の米です。大関の米の人気が高まれば、米作りに対する地元の機運もまた高まるのではないか。これまで組合員とだけ向き合ってきた私たちですが、大関の米を広く知ってもらうためにも、外向きの“攻めの活動”をしていこうと考えるようになりました。





大関水稲作組合収穫祭

昨秋、初めて収穫祭イベントを実施しました。大関の米を存分に味わってもらうため、炊きたての新米試食と豚汁の無料配布、米の販売会を行いました。物足りない方のためには“白いご飯に合う”キッチンカーも設営。米がもらえるじゃんけん大会や、大型農業機械の試乗フォト撮影など、子どもが楽しめる企画も盛り込みました。初の試みでもあり、PR等に課題を残しはしましたが、来場者180名を迎えることができました。

昨秋は組合員が生産した米を買い上げて用意しましたが、次回は組合として生産した米でイベントに臨みたい。今から準備を進めてています。米作り一本の私たちですが、これからもできることを探していきたいです。

（024-577-5866 渡邊）

